「公共サービスについて考えてみよう」

【導入】

　・ワークシートの本文を読む。

【展開】

　≪問1≫

　1、各自が（問1）の答えを予想欄に記入する。

　2、記入後、複数の生徒に予想を発表させ、意見交換を行う。

　3、サウスフルトン市の消防の仕組みの説明をする。

　　・市の消防サービスを受けるには毎年75ドルの費用を支払う必要がある。

　　・消防活動は市が提供するサービスで、サービスを受けるか受けないかは、市民の自由

　　　である。

　4、正解は「Ａさんは消防のサービスを受けるための費用を払っておらず、Ｂさんは払っ

　　 ていたから。」と話す。

　5、正解を聞いてどう思ったか、複数の生徒から意見を発表させる。

　6、日本とサウスフルトン市との違いを考え、意見を発表させる。

　　・日本では、消防活動の費用は無料である。

　　・日本では、消防活動の費用は税でまかなわれており、消防活動は納税の有無に関係

　　　なく行われる。（日本は受益＝負担ではない。）

　　⇒国民の生命を守る消防などの公共サービスは国民皆に広く提供されており、その費

　　　用は税というかたちで、国民が広く分かち合って分担していること、憲法には納税

　　　の義務があることを理解させる。

≪問2≫

　1、発問「もし、国民が税金を納めなかったら（納税の義務を果たさなかったら）、どの

　　 ようなことがおこるでしょうか。」

　2、問2について考え、それぞれの欄に記入し、各自の意見を発表させる。

　　⇒学校や警察など身近な例を提示して、税がなければどのような社会になるか考えさ

　　　せる。

　　　政府は市場の働きにゆだねることが難しいサービスを提供していることに気付かせ

　　　る。

　　　納税の義務を果たすことの大切さを理解させる。

　≪問3≫

　1、発問「費用がかからないということから、救急車を病院までのタクシー代わりに利用

　　 する人がいて、救急車の出動回数が増加しているという問題があります。これについ

　　 て、救急車の利用については有料化すべきとの意見があります。みなさんはこの意見

　　 ついて賛成ですか、反対ですか。」

　2、賛成派、反対派それぞれに挙手させ、意見発表を行い、意見交換させる。

　　⇒税負担が当たり前とされる公共サービスを取り上げ、税の負担者として

　　　公共サービスの負担の在り方などについて考え、意見を持つことの大切さ

　　　に気付かせる。

　　　政府がどのような公共サービスを提供するのかは、最終的に国民の意思

　　（選択）により決定されることを理解させる。

【まとめ】

　・公共サービスの費用をまかなう税の役割や納税の義務を果たすことの大切さ

　　を学んだ。

　・公共サービスを国からどのような形で提供を受けるのかは、国民の意思（選択）

　　により決定されることを学んだ。

　※社会の一員として、税の使い道などに関心をもって、政府の役割や財政の在り方

　　について考え、意見を持ってもらえたら嬉しいです。